



最近寒くなってきましたね。
冬にはインフルエンザをはじめとするウイルスが
活発になってきます。
ワンちゃんネコちゃんも、ウイルスに感染して
風邪のような症状がみられることがあります。
今回はその代表的なものを紹介します。



猫の上部気道感染症



上部気道感染症は猫において多い疾患で、猫ヘルペスウイルスや猫カリシウイルスが原因の9割を占めています。
感染は、症状のあるネコちゃんや、その分泌物に接触することで生じます。
特に幼若なネコちゃんや、ストレスのかかったネコちゃんは症状を示すことが多いです。

こんな症状があったら注意！

くしゃみ・鼻汁・流涙など



気をつけること

感染猫と接触させないこと
ストレスを減らしてあげること
ワクチンを打つこと





犬伝染性気管気管支炎



犬伝染性気管気管支炎、いわゆる”ケンネルコフ”は、伝染性が強く、気道に限局した急性疾患です。

感染動物からの飛沫や直接接触によって伝播することから、保護施設やペットショップなど多頭飼育の環境下で流行することがあります。

犬アデノウイルス2型、犬パラインフルエンザウイルス、および *Bordetella bronchiseptica* (気管支敗血症菌) といった感染因子の中のひとつあるいは複数によって起こります。

症状

ケンネルコフになってしまったワンちゃんの特徴的な症状は乾いた咳や慢性的な鼻汁です。

軽度の症状では一般的に全身状態は良好です。食欲もあり、元気もあるような状態です。しかし、重度な場合には発熱や元気消失、食欲不振などがみられます。さらに重篤になると肺炎などに進展してしまう可能性があります。

予防するには？

原因であるウイルス感染を予防するには**毎年のワクチン接種が効果的**です。

しかし、細菌やマイコプラズマなどウイルス以外が原因となることもあり、100%予防するのはなかなか難しい状況です。

ワンちゃん同士で感染してしまうため、症状のある子は他のワンちゃんとの接触を避けた方がいいでしょう。

ちなみに・・・

ケンネルコフは**1歳未満の若いワンちゃんに発生が多い**とされてますので、新しくお家にワンちゃんを迎え入れる際には感染していないか、しっかり診てあげましょう。